

○質問者 教育用のツールなのですが、これは、アクシデントマネジメントの教育をより効果的に実施するため、先ほどの手順書類のほかに、シビアアクシデント時に考えられる現象及びプラント挙動、アクシデントマネジメント策の内容やアクシデントマネジメントガイドの解説等に係る、何かテキストがあるんですか。

○回答者 はい。

○質問者 それから、動画による事象推移の解説、理解度表示機能を持つ対話形式の演習問題などの機能を持たせたCAI、アクシデントマネジメントの概要を理解するためのビデオ、シビアアクシデントをシミュレーションできるパーソナルコンピュータを教育用ツールとして活用しているとあって、この辺のソフト関係のもの、これは東電で自前で用意されるんですか。

○回答者 これは、基本的に東電で用意しています。

○質問者 それは本店の方ですか、それとも。

○回答者 本店がメインで、教育の基本ツールの話は、本店の方で用意をして、それを各発電所にばらまいて。

○質問者 本店にも、こういった原子力発電所を安全に運営していくための教養係みたいな、そういう部署はあるんですかね。

○回答者 原子力運営管理部です。今、名前がぐちゃぐちゃ、ばかな会社だから、組織の名前をすぐ変えるからわからないですけども、要するに発電関係の発電員だとか、当直員関係の業務を統括しているようなセクションが運営管理部にありますから、そちらが全部統括しています。

○質問者 ちなみに、例えば当直の場合だと当直長という班の責任者のような方、こういう当直長とかになられる場合、何か研修みたいな。

○回答者 勿論あります。当直長試験というのがあります。それは、社内ではなくて、社外の、国全体としてやっていますので、その中ではかなり高度な質問があつて、筆記もありますし、それから専門家の先生による口頭諮問もありまして、そこで能力、資質を確認して、その中に当然シビアアクシデントの操作手順について熟知しているということも当然1つになっています。

○質問者 それは、国が実施する試験、国家試験なんですか。

○回答者 準国家試験みたいな形で、国が外部に委託しているんですけども、それは東京電力だけではなくて、オールジャパンで当直長になるときに、その資格を持っていましたよと、こういう形です。

○質問者 そうすると、例えば当直長になった方でも、その後、また移動で別のところに行かれる場合があるわけですね。

○回答者 はい。

○質問者 それで、ずっと当直長の資格を持った人たちが、またよその部署で働いているということになるわけですか。

○回答者 はい。

○質問者 当直の副長さんですか、それは特に試験とかはないんですか。

○回答者 当直副長になるときは、試験というのはないんですけれども、当直員というのは、一番下が補機操作員と言いまして、現場の機器の周りでいろいろな確認したりをする。次にオペレーター、中央操作室、盤の前に座って操作がやっどできる、それも8年目ぐらいなんですけれども、それから、そのステップ、ステップごとに、さっき言いましたBWR トレーニングセンターでいろんな研修をやるんですね。それがあるレベルになってオペレーターをやらせてもいいと、それでオペレーターを何年かやって、なおかつ普通の勤務の状況も見つつ、BWR トレーニングセンターでのある研修を受けて、その成績で次に行くか見ているんです。

ですから、資格そのものがぼんと副長の資格というのがあるのではなくて、それまでの積み重ねで、そういうちゃんとした研修を受けてきている、それからいろんな対応操作、通常、非常に的確だとか、そういう判断で副長にしますから、そういう意味では十分な資質を持っていると言えると思います。

○質問者 そのラインというのは、例えば副長になるまでに、相当の年数を重ねていかないと副長になれないわけですね。

○回答者 なれません。

○質問者 そうすると、ずっと当直業務というような形で。

○回答者 基本的には、ずっと当直業務なんです。

○質問者 この間で異動とかはあるんですか。

○回答者 それはあります。それもあつし、福島第二との間もありますし、柏崎との間にやりとりはありますし。

○質問者 でも、やるのは、ずっと当直という方が多いんですか。

○回答者 多いです。

○質問者 あとは、当直の方と別途研修なんかをずっとされているということは、また、それ用の教材とかも、支援組織と違って別途あるわけですね。

○回答者 支援組織用のものの何百倍の教材があつて、先ほどのBTCなんかよりもっと具体的な操作の手順だとか、設計の基本的な考え方だとか、そういうのを含めてですね、資料がありまして、それを勉強するテキストがあります。

○質問者 その辺の最初の出だしのところで、最初に東電に入りました。それで、原子力に配属されました。そこで何かあるんですか、君は当直向きだとか。

○回答者 1つは、本人の意向があつて、運転員はある意味特殊業務なんだけれども、やりがいがあると、要するにプラントを直に運転していると、そういうのが好きだと、それで入ってきたという人間も多いですから、そういう人間は、まずは回すんですけれども、それで、そこでややこしいのは、これうちの会社のあれなんですけれども、高卒と学卒がありますでしょう、大学卒がありますでしょう、高卒の人は、やはりそこで、こういう

言い方をするとあれなんだけれども、当直を真面目にしっかりやっていると、当直長になれるんですね。当直長というのは、特別管理職なわけですね。ほかのセクションに行ったときに課長級というか、特別管理職になり得るかという、やはり学卒がそのゾーンは多いものですから、例えばなりづらいとか、嫌らしい話をすると、そういうのもあるんです。だから、当直長になりたいという意思を持った人間はおりますから、そういうのが支えているんじゃないですかね。

○質問者 どちらかという、こちらの方の当直を業務されている方というのは、そういう高卒上がり。

○回答者 多いです。もうほとんど高卒で、学卒の当直長は、福島第一は、一昨年までいましたけれども、今、一人もいないんじゃないですか。という、やはり学卒ですと、いろいろ異動させられるわけです。そうすると、さっきいった勉強だとか、現場を知るといふ時間がどうしても短いんですよ。それで副長とか当直長にさせてしまうと、やはり年も若くてなるわけです。だから、経験から言うと、古手の当直長の方がよっぽどよく知っているという、どこの世界でもよくあると思うんですけども、そういう形になるものから、なかなかうまくコントロールできない。当直長が、そういうことがあって、どうしても当直員は、高校卒の人のスペシャリストになる業務という、そんな形ですかね。

○質問者 また教育の方ですけれども、「教育等の維持改善」というところで、アクシデントマネジメントを有効に機能させるためには、常日ごろから教育が不可欠だと、これはずっと実施されているわけですね。それで、アクシデントマネジメントの整備終了後においても、継続的に教育の実施を進めるとともに、より実効的な教育方法、最新の知見の取り込み等について検討し、適宜見直しを図っていく予定であるとあって、こういったいろんな事象なんかを、例えば最近だったら、柏崎の方で、中越沖のときに火災が起きました、そのときにどう対応しましたかみたいなどころなんかが入ってくると、それに沿った形でまた教材も含めて見直してみたいな話になってきますね。

そういうときというのは、サイトの方がその辺の見直しに関わるということはあるんですが。

○回答者 具体的なところは関わるんですけども、そういうものを取り込まないといけないとか、そういうところは、どちらかという、本店で、3サイトに全部関わりますので、本店がリードして、今回は、こういう形でテキストの見直しだとか、講義内容の見直しをしようというのは、本店がオリエンテッドでやるという形ですかね。

○質問者 それで、具体的に、ここをちょっと加筆するとか、そういうのは、どっちがやっているんですか。

○回答者 それは、基本的なテキストの部分は本店でやるということですね。ただ、具体的に、それが個々のプラントに落ちてきたりすると、例えばさっき言ったもの、もともと設計が違いますから、例えば1号機と2号機は違うわけですから、そこら辺の具体的なところは、各発電所がやるということ。